

むかしの高松

'99/11
第13号

遺跡
紹介

木太中村遺跡

～高松市木太町～



〈復元想像図〉

今回紹介する木太中村遺跡は、高松琴平電鉄長尾線の林道駅の東側にある遺跡です。

遺跡の存在が明らかになったのは、高松市が計画する都市計画道路福岡三谷線の建設に先立って試掘調査を行った平成9年の事です。その時に、溝や柱穴が見つかり、土器も出土しました。その結果を受けて発掘調査を行うこととなりました。発掘調査は、平成10年6月11日～10月9日と平成11年6月1日～7月30日の2ヶ年にわたって実施されました。その面積は約4000㎡です。

遺跡の名前は、町名の「木太」と字名の「中村」を取って、『木太中村遺跡』としました。

次のページから時代毎に説明しましょう。



遺跡の位置

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」

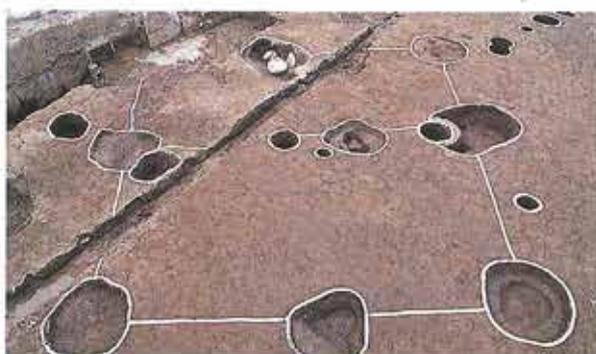
年代	時代	木太中村遺跡	主なできごと
六〇万年前	旧石器時代		日本列島に人が住み始める
紀元前一万年	縄文時代		縄文土器の使用
紀元前二〇〇年	弥生時代		大規模な縄文集落
紀元後	古墳時代	掘立柱建物跡	九州北部に水田稲作が伝わる
三〇〇年	飛鳥時代	土坑	青銅器の制作
七九四年	奈良時代	掘立柱建物跡	前方後円墳の築造
七一〇年	平安時代	川が堰まる	都馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る
六四五年		溝	大化の改新
一九二年		大阪から土器が持ち込まれる	平安京
一一三六年	鎌倉時代	条里地割の溝	平城京
一六〇三年	室町時代	掘立柱建物跡	源頼朝が鎌倉幕府を開く
一八六八年	安土桃山時代	井戸	
一九九九年	江戸時代	掘立柱建物跡	徳川家康が江戸幕府を開く
	現代	発掘調査	

弥生時代

木太中村遺跡に初めて人が住み始めたのは、今から約1700年前の弥生時代の終わり頃です。4棟の掘立柱建物跡と3基の貯蔵用の穴と考えられる土坑が見つかりました。遺構ではありませんが、北東方向に流れる自然の川跡も確認されました。

掘立柱建物跡（写真①・②）はほぼ同じ方向を向いており、ほぼ等間隔に建てられています。今では柱を立てていた穴のみが残っているだけですが、当時は柱や屋根や床などの上屋のある大きな建物だったでしょう。

土坑は（写真③・④）は完全な形の壺や甕などの土器が意図的に置かれていたことから貯蔵用の穴であった可能性があります。



写真① 掘立柱建物跡



写真② 掘立柱建物跡



写真③ 土坑



写真④ 土坑



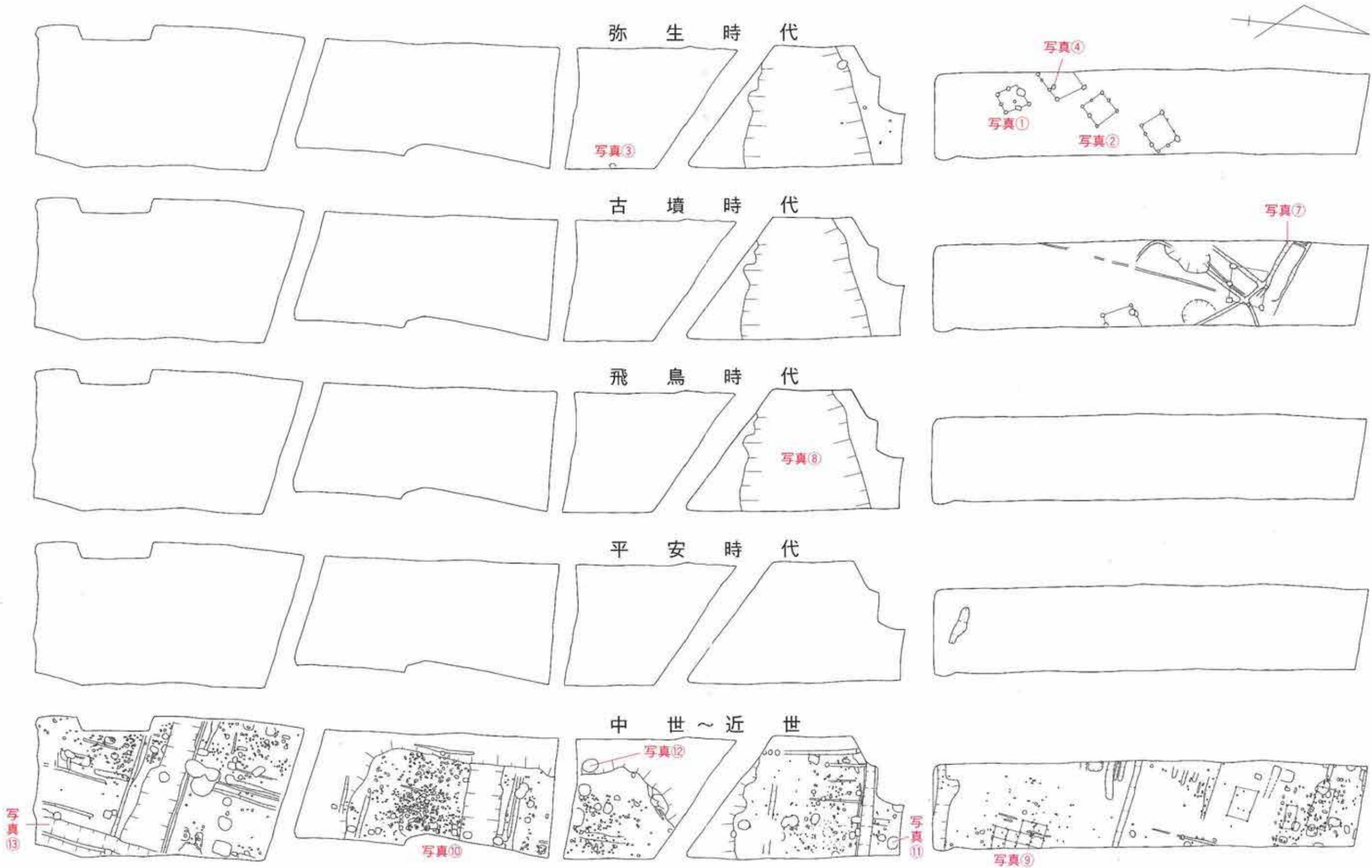
写真⑤ 発掘風景



写真⑥ 発掘風景

* 調査区の間隔はパンフレットに入るように詰めています。

木太中村遺跡では弥生時代から近世にわたる多数の遺構が重なり合って検出されたため一見するとわかりにくい状態です。そこで、時代別に遺構を表したのが下の図です。



古墳時代

古墳時代終わり頃の掘立柱建物1棟と溝が見つかりました。

溝の中からは須恵器の壺や甕、土師器の鉢などの多量の土器が集中した状態で出土しました(写真⑦)。その中にはイイダコ壺の破片も見られることから、周辺で漁業を行っていたことが考えられます。



写真⑦ 溝

飛鳥時代

コトデン林道の駅から木太小学校の方向に流れる川(写真⑧)が見つかりました。

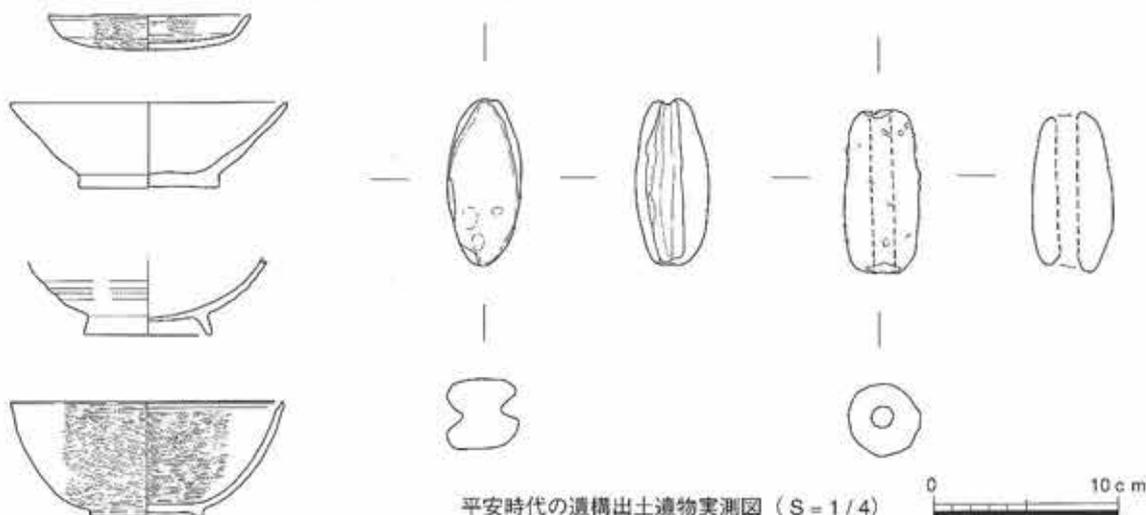
川の幅は約20mありました。川の中からは弥生土器、須恵器、土師器がたくさん出土しました。川は弥生時代～飛鳥時代まで流れていました。



写真⑧ 川跡

平安時代

北端の調査区で見つかった東西に細長い用途不明の遺構が平安時代の遺構です。ここから大阪で作られた黒色土器が出土しており、当時大阪方面と交流があったことを物語っています。また、網のおもりなども見つかっており、漁業が行われていました。



中世～近世

この遺跡で最も遺構・遺物が多く、中心的な存在となっているのがこの時代です。遺構は調査地区全域にわたって見つかりました。中世の遺構は掘立柱建物跡2棟と溝があります。近世の遺構は掘立柱建物跡2棟・多数の柱穴・溝・土坑・井戸・川跡があります。

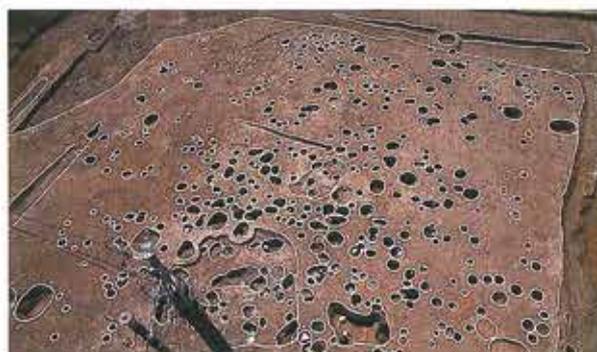
掘立柱建物跡（写真⑨・⑩）は北端の調査区のみで確認されましたが、他の調査区でも無数の柱穴が検出されていますので、何棟もの建物が何度も建て直されていたと考えられます。当時、この周辺は大きな集落だったのでしょうか。

井戸は石組み（写真⑪）・木枠（写真⑫）・素掘りの3種類あります。

溝（写真⑬）は条里地割に基づく溝であり、幅が1.7m以上の大規模な溝です。



写真⑨ 掘立柱建物跡



写真⑩ 柱穴群



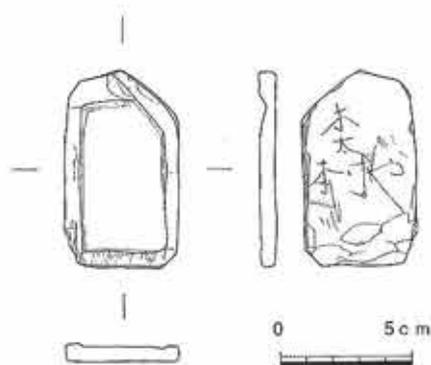
写真⑪ 石組み井戸



写真⑫ 木枠井戸



写真⑬ 溝



「木太村」の線刻がある硯 (S=1/3)



発掘調査が終わりに近づいた7月25日に、現地説明会が行われました。説明会では、同遺跡の掘立柱建物跡・土坑・溝・柱穴等を見学すると共に、スライドを使った木太町周辺の遺跡についての詳しい解説も行われました。



編集後記

今回は7月に調査を終えた木太中村遺跡を紹介しました。この遺跡は、これまで古代の海岸線と考えられてきた推定線を改めて考え直してみる契機となるなど、木太町周辺の歴史の研究に新たな資料を提供しました。このような発掘調査のひとつひとつが歴史の謎を解く鍵となるのです。

さあ、いっしょにこの鍵を使って歴史の扉のひとつを開いてみましょう。(N)

むかしの高松 第13号

1999.11.30

編集発行／高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市番町一丁目8番15号

☎087-839-2636

印刷／株式会社 中央印刷所